

C 特別支援教育

1 テーマ 高等学校における通級による指導の充実 ～情報共有システム構築と授業づくりの実践をとおして～

2 発表の概要

今年度は、〈卒業後の就労自立に焦点化した授業づくり〉と〈学びの汎化を目指した情報共有システムの構築〉を研究の2本柱にして、実践研究を行った。分科会では研究の概要について説明を行い、その後、実践協力校である県立荒川高等学校から取り組みの成果と課題を報告いただいた。

研究の1本目の柱として、作業的活動を取り入れた自立活動の授業づくりを提案した(図1)。これは、生徒が実際の作業をとおして自己理解を深め、個々の課題解決に向けて取り組むことをねらいとしている。単元の始めに、生徒は自校化した「就労のためのチェックリスト」(図2)で自己評価を行い、それぞれの課題を設定する。そして、1単位時間の中で作業日誌の記入(Plan)から作業的活動の実施(Do)、終了後の振り返り(Check)と改善点の明確化(Act)までのPDCAサイクルを回し(図3)、生徒は其中で自己理解を深め、課題解決に取り組んだ。「就労のためのチェックリスト」は、その後も定期的に活用し、生徒自らが課題の達成度を確認した。



就労のためのチェックリスト (図2)

領域	No.	チェック項目	内容
I 日常生活	1	生活のリズム	起床、睡眠などの生活リズムは規則正しい。
	2	健康管理	食事をしっかり取る。
	3	身だしなみ	場にあさわしい身だしなみをする。
	4	金銭管理	小遣い等を計画的に使う、必要なものを買う、保管するなど金銭管理ができる。
	5	交通機関の利用	通学(通勤)に交通機関を一人で利用できる。
	6	規則の遵守	職場(学校)や集団のルールやマナーを理解し、守る。
	7	危険への対処	危険と教えられたことをせず、自分の安全を考えて行動する。

研究の2本目の柱として、「連携型-個別の指導計画」の活用を提案した。「連携型-個別の指導計画」には学級担任と通級指導担当者の記入欄を設け、両者が話し合いながら計画を作成する形式にした。他に、先述の「就労のためのチェックリスト」に生徒本人の回答欄だけでなく、学級担任や保護者の評価欄を設け、複数の視点から評価し、課題を整理した上で支援できるようにした。このように、「個別の指導計画」や「チェックシート」を介して、学級担任や通級担当者が指導内容や生徒の変容等を日常的に情報共有することで、校内支援体制の充実を目指した。

実践協力校からは、生徒が自己理解を深め、主体的に課題に取り組む様子が見られたとの報告があった。将来の自分の姿をイメージしながら目の前の課題に取り組み、生徒がやりがいをもって活動に取り組める授業づくりと支援体制づくりを今後も模索していきたい。

